

鐘楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第21号

令和7年3月 伊勢崎市立北小学校学校運営協議会

北小学校ホームページアドレス：<http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

☆ 令和6年度の北小学校運営協議会について ☆

「鐘楼」は、北小学校運営協議会の情報を地域や家庭に発信します。今回は、令和6年度の実行と各協議員からのメッセージを掲載しました。ご覧ください。

[北小学校運営協議会基本方針]

1. 地域の人材や、教育的財産を生かした魅力ある教育課程の編成に関する基本方針の承認及び、教育活動への助言・評価を行う。
2. 地域との交流や地域に根ざした学校づくりに関する基本方針の承認及び、助言・評価を行う。

★ 令和6年度の実行 ★

○ 第1回（6／6）

本年度の学校経営、本年度の学校運営方針について協議

○ 第2回（9／26）

第1回学校評価について意見交換

○ 第3回（11／14）

学校保健委員会の発表に基づく子どもたちの生活習慣について協議

○ 第4回（2／18）

第2回学校評価について、本年度の教育活動の成果と課題について、次年度の学校経営・学校運営方針について協議

～ 本年度の北小学校運営協議会委員です。～ [50音順]

会 長	芝崎 和子	（曲輪町3区 区長）	副会長	山田 千広	（北小 PTA 会長）
委 員	新井 恵子	（放課後こども教室コーディネーター）		小山 美子	（伊勢崎市立第一幼稚園長）
	小熊 良一	（群馬大学共同教育学部 准教授）		佐藤 昌弘	（北公民館長）
	武井 美樹	（北小 PTA 副会長）		平岡 さつき	（共愛学園前橋国際大学教授）
	本堂 晴生	（NPO 法人 G コミュニティ代表理事）			
	丸山 晃司	（北地区青少年育成推進委員）			
	山田 亜基子	（北小ボランティアリーダー）			
	清水 賢治	（北小学校長）			
オブザーバー					
	飯島 隆	（北第二小学校長）			



★ 委員の方からのメッセージ ★

「聴く力」 山田 亜基子

私がボランティアに登録して8年になります。今年度は下校支援にはじまり、プール清掃、交通安全教室、調理実習、ミシン、スーパー見学、持久走試走、のこぎりなどの活動に参加することができました。

その中で、北小のみなさんに、ひとつだけお願いしたいことがあります。それは「先生の話を聞いてください」ということです。ボランティアが参加するような授業では、必ずはじめに先生が説明してくれています。それを聞いていなければ「わからない」「できない」のは当たり前です。逆に言えば、先生の話を聞くだけで「わかる」「できる」ことがほとんどなのです。

子どもたちのために何かできればとボランティアを続けてきました。「ありがとう」の言葉をもらい、上手にできたときの嬉しそうな顔も見ることができました。感謝のお手紙も、ありがとうございます。ボランティアリーダーは卒業になりますが、これからも北小のみんなを応援しています。

山田 千広

学校運営協議会にはPTAの代表として参加しています。北小はコミュニティ・スクールです。地域と連携して学校を運営しています。その協議をするところが、学校運営協議会です。学校運営協議会通信の「鐘楼」の紙面ではありますが、北小PTAのことを書きかせてもらいたいと思います。

PTAは、戦後に民主主義教育推進を目的にアメリカでのPTA組織を模範として導入されたそうです。紆余曲折を経て、その時代から現在まで活動を続けています。その点を考えるとPTAという組織は大きく社会状況が変化した中で、その役割を終えつつあるのかもしれませんが。

当初の役割を終えつつあるのかもしれませんが、学校や地域の中では、多くの新しい課題が生まれています。少子高齢化、孤立・孤独問題、インターネットを取り巻く問題、人種や性別、宗教などさまざまな属性を持った人々がどう共存していくのかも伊勢崎では大きな問題となっています。PTAや育成会、NPOなど様々な地域の団体がどう存続していくのかという問題もあります。

仕事や国、公共が重視されその中で生きていた時代から、個人や家庭が重視され、いつでも世界中とつながることのできる社会へと変わりました。コロナ禍は、その変化をより大きくしたように思います。個人や家庭、ワーク・ライフ・バランスが重視される一方で、地域社会との関係はどうでしょうか？個人や生活が重視される社会というのは、地域社会が軽視されることではないはずです。近年で「ワーク・ライフ・ソーシャルバランス」という言葉もあるそうです。仕事と生活と社会的な活動をバランスよくという考えです。私たちPTAの活動も社会的な活動の一つだといえます。先にあげたような課題をPTAが解決することはできないでしょう。しかし、解決するための協力はできます。役割を終えたと思うのではなく、新しく出てきた社会課題を役割とすることが求められているはずです。

北小PTAとして、今年度は地区委員会の改革を行いました。また、次年度からは、賠償責任保険の導入、学校では新しい集金システムの導入も始まります。負担を軽減すること、会の維持のために労力を使うのではなく、子どもたちや学校・地域のために活動することを考え、「PTAは不要だ」とならない工夫をして、活動を続けていけたらと思います。

「多様であることを認めること」 小熊 良一

私には、18歳になる息子がいます。3月に高等特別支援学校を卒業しました。この18年間子育てをする中でいろいろな人たちを見てきました。敬遠し、特別な目で見る人。陰口を言う人。優しく支えてくれる人。変わらず接してくれる人。接し方や考え方は、それぞれです。正解はありません。不正解もありません。一つだけ言えることは、「多様であることを認めること」は、自分を成長させるということです。人は、本能的に変化を嫌い自分と違うものを避けます。心理学では「ホメオスタシスの同調」などと言われます。多様性を認めず、自分と同じような仲間であると安心できるのです。でも、そこから一歩踏み出すことで、自分を成長させることができます。私の研究をひとつ紹介します。私は、今、特別支援教育のプログラミングの研究をしています。今年は、伊勢崎北小学校でも授業をしました。日本では注目されないのですが、海外では多くの研究者が興味を示してくれます。

「多様であることを認めること」で、自分を成長させ、世界中に仲間をつくることができたのだと思います。

「小学校への滑らかな接続を願って」 小山 美子

幼児期の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯に渡る学びや生活の基盤をつくるために重要な時期であると言われています。子どもたちの健やかな成長を願うからこそ、子どもに関わる大人が校種を越えて協働し、生きる「人」としての育ちを支えることが大事なのだと思います。先日、北小学校の校長先生をはじめ、先生方のご厚意で1年生の授業を園児が参観させていただきました。教室を訪れると1年生の授業に向かう真剣さや前向きさ、そして自分の考えを生き生きと述べる姿からも学級の中に安心感があることも伝わってきました。このような姿を目の当たりにした園児たちからは「1年生ってすごいなあ」「1年生になるの楽しみ」などの言葉が聞かれ、入学への期待をもったようです。これも小さな協働であると感じ、幼児期に培った力が小学校で十分に発揮できるよう、今後も小学校の先生方と連携させていただけることを願っております。

佐藤 昌弘

北公民館では音楽、絵画、文学、ダンス、体操、手芸等の約50団体のサークルが生涯学習の発表の場として、日々、活発に活動しています。学んだ後の皆さんの表情は本当に生き生きとしています。また、公民館はみなさんが下校する際に見守っていただいているパトロール車や見守り隊の方たちの区長会をはじめとした北地区の各種団体の拠点にもなっています。本年も夏休みや冬休み期間の絵画教室や書道、手芸教室を開催いたします。機会がありましたら、皆様もお立ち寄りください。

「将来を考えることについて」 本堂 晴生

学校評価アンケートの結果では、子どもたちなりに将来を考えようとしている傾向が読み取れます。

今世界では戦争や対立が続き、日本でも年金の不安、少子高齢化や不確実な情報がはびこるなど、大人にとって将来が不安になる状況が続いています。大人の不安は子どもたちにも影響しますよね。

こういう中で子どもたちが生きる力になることとして、いろいろな考えるモノサシを持つということがあると思います。自分と違いのある人から違う見方を得たり、例えばスーパーでは買う立場と売る立場になってみることで、さまざまな見方を身につけられるでしょう。

読書からは、想像する力を得ることができますね。想像する力は、相手のことやまわりのことを理解するのに役立ちますし、将来のことを考える力にもなります。

私も、子どもたちが、まわりのことや将来について考え、自分で決められる学びの機会をつくる手伝いをしていきたいと思います。

